

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

イラン攻撃ゆるされない 日本は憲法9条まもれ 命くらし最優先の政治を

4月17日、尾村利成県議、日本共産党松江市議団（たねばなふみ団長）は、中国プロックいっせい宣伝として、商店街前で街頭演説しました。尾村氏は「原油価格の高騰などで、医療現場では手袋や



訴える尾村県議、松江市議団ら

点滴用チューブの価格上昇が起こり、農業、漁業、小売業をはじめあらゆる分野で不安が広がっている」と述べ、「新年度予算にはイラン攻撃を受けた物価対策が含まれておらず、緊急に対策と支援を検討する必要がある」と強調。高市首相（党総裁）が自民党大会（12日）で「憲法改定の時は来た」と檄を飛ばしたことにふれ、「国民が求めているのは改憲ではなく、生活の向上と平和だ。いま日本に求められているのは、9条の精神に立脚し、米国の戦争をやめるよう働きかけることだ」と訴えました。

届け続け実現したものの。所得要件撤廃などへいっそうがんばりたい。原発・プルサーマル推進の松江市政から、市民の命くらしを守る松江市へ、引き続き給食費や子ども医療費高校生までの無償化へ市民の声を届ける」と訴えました。樋野伸一市議は元病院職員として毎議会医療問題について追及を重ねていると報告し「引き続き医療従事者の待遇改善、安心してかかれる医療求めがんばる」と述べました。佐野みどり市議は自らが出身の赤十字病院は「戦場で敵味方なく命を救ってきた」と紹介し「今戦争が各地で起きている中、二度と戦場に送らない決意で声をあげていく」と述べました。

4月12日、大平よしのぶ元衆議院議員が3月20日から行われていた中国プロック「憲法を真ん中に春を呼び込む対話キャラバン」最終日に松江市を訪れました。

大平よしのぶ元衆議院議員招き
若い世代がおしゃべりカフェ開催

4・8憲法守れ国会前行動に連帯 JR松江駅前市民がデモ



JR松江駅前広場に集う市民

全国165か所で同時開催された「NOWAR! 憲法変えるな! 4・8国会前緊急行動」に連帯し松江市ではJR松江駅前に90名以上の市民が

集いました。各々にペンライトや光るプラカードなどを持ち寄り「戦争反対」「憲法まもれ」「武力で平和はつくれぬ」「高市首相は憲法守れ」「平和憲法今こそいかせ」とコールしました。

この行動は、3600人集まった2月27日の首相官邸前集会を皮切りに、3月10日8千人、25日2万4千人と国会前を中心に行われ、4月8日は国会前に3万人、全国で約5万人が参加。高市首相が平和憲法の改正や国民投票に言及し、憲法9条が危ぶまれる中、憲法9条を今こそまもろうと、若者や女性を中心にSNSでよびかけられた人たちが集まりました。

「介護現場は休憩もなく賃金も低い」「医療現場では戦争の影響で資材が不足してきている」「教育現場は休憩時間や授業準備時間が保障されない」など様々な声が出されました。

駅の利用者や通行人、高校生などが立ち止まり最後まで参加する姿も。飛び入りで高校生がコールに参加したり、別のグループにいた高校生が「戦争はだめですよ。デモ行進もしますか」など声をかける姿もありました。

市民が入れ替わり次々スピーチやコールを行い「高市さんは日本の首相にふさわしくない!!」「戦争反対! あたりまえのことを言ってる叩かれる、でも言い続けよう」「憲法まもれ」と訴えました。

「大平よしのぶさんとおしゃべりカフェ」には高校生、大学生、ケア労働者、学校職員など若い世代十数人が集まりました。3人ずつのグループに分かれ「あなたのもやもや聞かせてシールアンケート」に答え語り合いました。アンケート項目は「戦争・平和・核兵器」「物価高(消費税・賃金)」「将来の不安」「ジェンダー」「気候危機」等です。

「大平よしのぶさんとおしゃべりカフェ」は、大平氏に教育や農業、イラン攻撃などに関して寄せられた疑問に答え「選挙で勝てなかったのは残念だけど、今だからこそ、みんなの声をじっくり聞くことができました。お互い主権者として対等に語り合い、願いを聞きながら、一緒にいい世の中をつくらう」と参加者に呼びかけました。

終了後、大平氏は真ん中世代党員らと共に岸公園で、夕日を楽しみ市民とシールアンケートを使って対話しました。対話した若い市民から「戦争と物価高はつながっている。アメリカにこのままついていっていいとは思わない」「資材高騰がこれ以上続くと仕事が立ち行かない」「早く戦争が終結してほしい」など率直な声寄せられました。